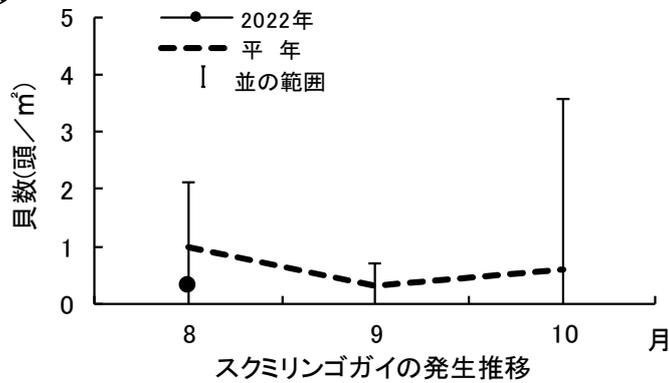


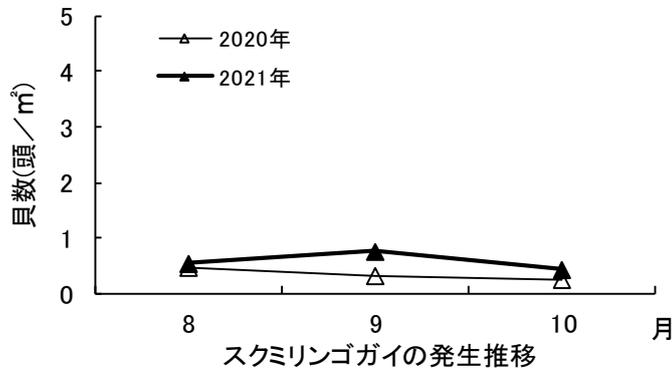
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↘	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移



・発生ほ場率：75.0% (平年値：58.5%)

防除のポイント

- ・貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。なお、捕殺時はゴム手袋を着用する。
- ・取水口に侵入防止網（目合6~9mm程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

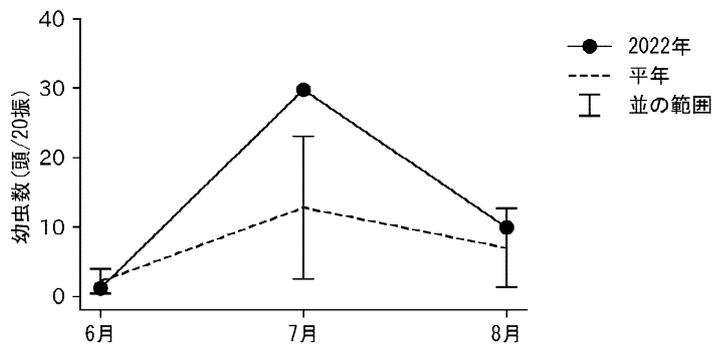


スクミリンゴガイの卵塊

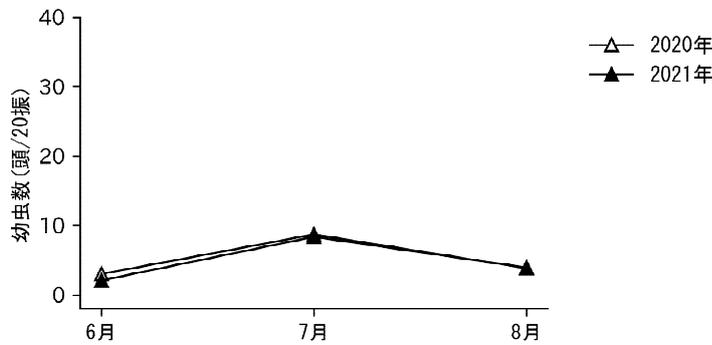
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	バッタ類		 <p>台湾ハネナガイナゴ</p>
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	—	
	9 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

バッタ類(幼虫)の今期と平年の発生推移



バッタ類(幼虫)の過去2年の発生推移



- ・発生ほ場率83.3% (平年 : 78.8%)
- ・発生種 : 台湾ハネナガイナゴ

防除のポイント

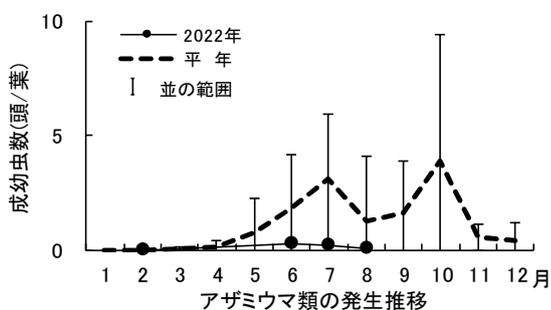
- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。



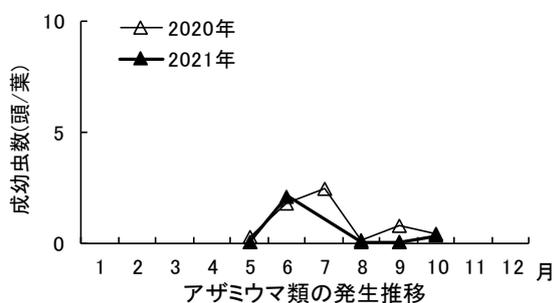
作物	マンゴー	地域	八重山群島	
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	8 月の発生量 (平年比)			並
予報	8 月からの増減傾向			↗
		9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

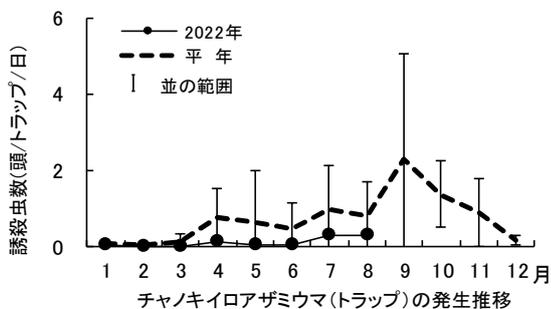
見取り調査：今期と平年の推移



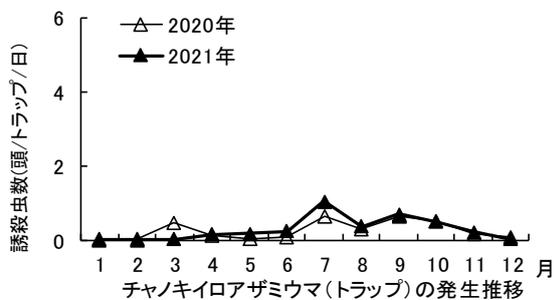
見取り調査：過去2年の推移



トラップ調査：今期と平年の推移



トラップ調査：過去2年の推移



・発生施設率：40.0% (平年値：60.0%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

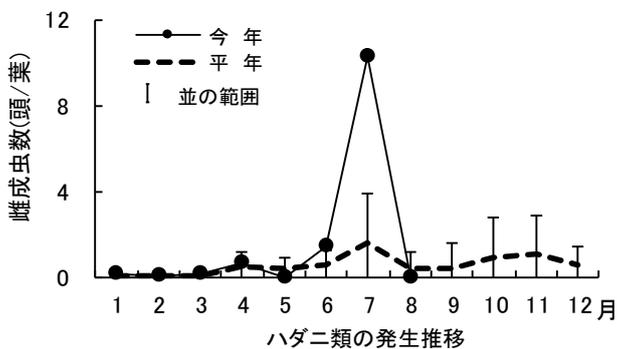


ナガエコミカンソウ

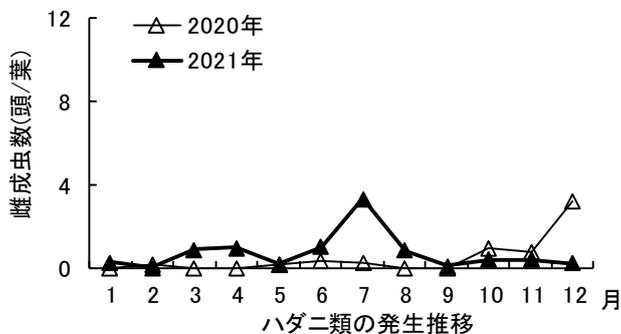
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	→	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移



・ 発生施設率：20.0%（平年値：34.0%）

防除のポイント

- ・ 晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

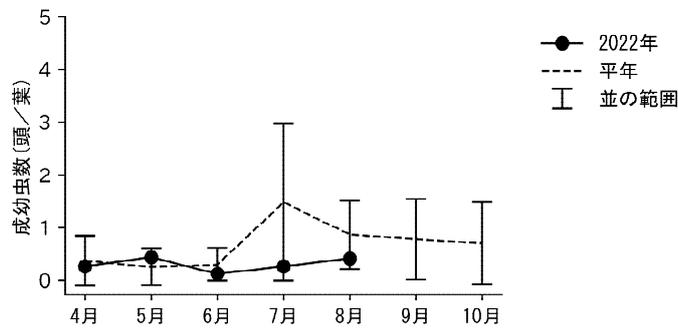


マンゴーツメハダニ

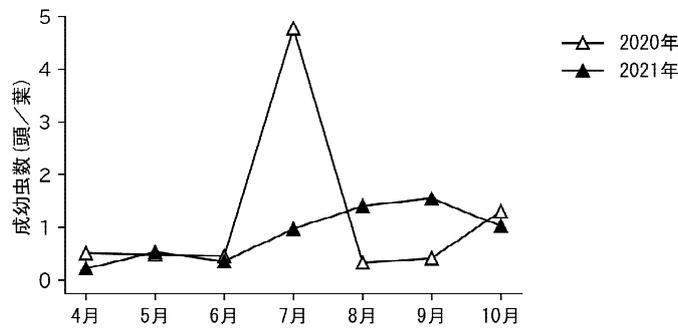
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

フタテンミドリヒメヨコバイの今期と平年の発生推移



フタテンミドリヒメヨコバイの過去2年の発生推移



・発生ほ場率50.0% (平年 : 85.7%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

